

航空連合NEWS

発行：航空連合／発行人：内藤 晃 〒144-0041東京都大田区羽田空港1-6-5 第5総合ビル5階 TEL (03) 5708-7161 FAX (03) 5708-7163

第20回

定期大会を開催!!

2018 春季生活闘争では、これまでの数年で実現してきた「人への投資」を継続、拡大することを主眼とし、「賃金の改善」と「働き方の改善」を両輪として職場における活力の好循環を実現するべく、産業一丸となった取り組みを進めた。数年前までは、ベースアップ、あるいは賃金改善そのものに、職場も労働組合も若干後ろ向きであったことは否定できないが、これまでの数年に渡る継続的な賃上げを通じ、「職場が頑張った分だけ、成果を挙げた分だけ、自分たちの賃金は改善される」という、ある種の常識が再び定着した証だと考えている。働くもの一人ひとりが自らの成果に自信と確信を持ち、その成果の配分として賃上げを目指して取り組み、生活を向上させることが、経済成長の観点からも不可欠。2019春季生活闘争が迫るなか、これまで作り出してきた賃上げの流れを断ち切らないということを通認し、議論を進めなくてはならない。

6月に成立した働き方改革関連法案については、現在、法の詳細に関する指針やガイドライン策定にむけた議論が行われているが、今回成立した法が施行されるまでの間に労使双方で職場の状況を点検し、必要な対応に関して議論を進める必要がある。そのためには、労働組合の組織としての強み、つまり、職場の

島会長
挨拶
(要旨)



隅々にまで張り巡らしたネットワークを活用し、経営からは見えない現場の最前線での日々の実情を把握し、職場全体にとって良い制度変更が実現するよう全力を尽くさなくてはならない。

産業政策に関して、現在、航空保安体制の強化に関する法律案が継続審議となっているが、引き続き成立を

目指して取り組みを加速させなくてはならない。産業政策は、航空連合の取り組みの大きな柱の一つであり、航空保安体制の強化や、来年度末に期限を迎える航空機燃料税の軽減措置など、多くの取り組むべき課題がある。産業政策の実現に向けては、政治との関係を切り離すことはできない。来年は参議院選挙もあるが、引き続き、航空連合政策議員フォーラムを中心に、航空連合の産業政策を理解し、その実現に向けてともに取り組める候補者を国政の場に送る必要もある。

本日から、第20期、結成から20年目となる節目の1年がスタートする。加盟組合数は、結成当時の30組合から54組合に、組合員数も28,300人から4万人を超える規模となった。これは、これまでの地道な活動の結実であり、現在の航空連合を支える仲間の日々の活動の成果でもある。20年目の節目となる今期は、これまでの運動を振り返り、将来のさらなる飛躍に向けた準備を行うための1年であり、これからの時代に即した組織を目指さなくてはならない。この節目で、今一度原点に立ち戻り、全ての航空関連産業で働く仲間のための組織を目指すべく、航空関連産業のさらなる発展に向けて、これからの航空連合を、集うすべての仲間とともに作り上げたい。

- 第一号議案
第19期活動報告及び第20期運動方針(案)
- 第二号議案
第19期決算報告・剰余金処分(案)、第20期予算(案)
- 第三号議案
2018-2019 産業政策提言(案)
- 第四号議案
役員補充

大会に付議された議案は全て可決承認されました。

01 来賓挨拶

連合 神津里季生会長、立憲民主党 枝野幸男代表（航空連合政策議員フォーラム会長）、国民民主党 玉木雄一郎代表（同フォーラム副会長）、国土交通省航空局 岩崎俊一次長、定期航空協会 辻岡明理事長から激励のご挨拶をいただきました。



連合
神津会長



立憲民主党
枝野代表



国民民主党
玉木議員



航空局
岩崎次長



定期航空協会
辻岡理事長

02 第20期運動方針（案） 魅力ある産業づくりを目指すことを掲げた第20期運動方針が承認されました。

- 人材の定着・育成・確保という産業全体の喫緊の課題に対応するため、「2020年までの重点取り組み項目」の達成に向け、一丸となって取り組みを継続、強化し、産業の基盤強化と発展、働きやすさと働きがいの充実、産業の活力創造に向けた下記の課題に着実に対応していきます。
- 結成から20年目の節目において、これまでの航空連合の活動と運営を振り返り、総点検したうえで、中長期的な視点に立ち、今後のさらなる飛躍に向けた準備に取り組みます。

質疑（要旨）

代議員 賃金改善の取り組みについて、ベアと働きがいにこだわった活動は賛同しているが、一方で、ベアを数年間連続して取り組むことに対しては、職場の納得感が重要である。どのように納得感を高めていくのか。

航空連合 ベアに対する職場の納得感は非常に重要である。納得感のある春闘方針を策定することに加えて、総合福祉委員会でのグループディスカッションなどを通じて、組合役員同士の理解を深め、納得感を高められるように工夫したい。

代議員 組合員の「組合離れ」について課題認識を持っている。航空連合として具体的な対応等を検討していただければ説明をいただきたい。

航空連合 「組合離れ」については、前期の委員会の中でも多くの声があげられていた。今後も組織サポートの観点で本部として個別に相談に乗り、勉強会の開催など、具体的な打ち手を検討したい。また、航空連合の存在価値を感じていただくためには、やはり横断的な意見交換の場や、他産別・他職場の情報提供などが有効だと考えている。それらの取り組みを充実させていくことに加えて、地方組織などにも協力をいただきながら、一般組合員の方が参加しやすい労組横断的な取り組みなども検討したい。

代議員 今年は特に自然災害が多いが、災害などの有事の際の取り組みについて、航空連合としてどのような活動をしているか補足いただきたい。

航空連合 方針に「社会との関わり」を掲げ、連合との連携やボランティア活動などを展開している。また、空港の防災拠点としての役割や、従業員の安全確保の観点では、産業政策提言でも課題認識を取りまとめているが、職場の声をもとに引き続き検討していきたい。



03 2018-2019 産業政策提言（案）

働くものの立場から航空関連産業の健全な発展を目指し、策定された産業政策提言が確認されました。

質疑（要旨）

代議員 航空関連産業を支える人材確保における航空イノベーション推進について。ここ数年、人材確保は一層困難になっている。職場は繁忙感から前向きになれていない状況がある。ぜひ、イノベーションにつながる政策活動の充実をお願いしたい。

航空連合 航空イノベーション推進については、前期もグラハン貨物部会を中心に議論を行っており、そのなかでは、航空局との議論も行ってきた。今期においても航空局との連携も含め、職場の実態を踏まえた活動を展開していきたい。

代議員 空港では様々な従業員が保安に携わっているが、特にCAは上空では自分たちが保安をつかさどるという使命を持っている。そのなか、今までは想像できなかった事象も発生するのではないかと危惧している。航空連合の強みを活かし、保安強化に向けた働き方を横断的な声として発信していただきたい。

航空連合 客室における安全を巡る観点で、機内迷惑行為防止法において安全阻害行為を防止する取り組みは継続して実施していきたい。第19期においては「盗撮」というテーマで客室部会でも議論させていただいた。現在は定期航空協会と課題解決に向けて意見交換を実施しているところである。引き続き客室乗務員が安心して乗務できるよう取り組んでいきたい。

代議員 地方空港の現状として、利用者数が増えている一方で、スポットなど空港施設の整備が進んでいない。また、バリアフリーについても、エレベーターに車いすが1台しか入れない、下りのエスカレーターがないなど、空港施設の改修が進んでいない現状がある。

航空連合 空港の現場における課題認識を伝えていただいた。地方航空連合の政策提言への反映や、本部からのサポートなど、引き続き取り組んでいきたい。

代議員 観光先進国にむけた提言において、諸外国へのプロモーションについて触れられているが、どのような課題認識を持っているのか改めて説明をお願いしたい。

航空連合 観光庁の予算のうち、多くがプロモーションに活用されている。そのため、プロモーションについては重点的な国・地域と航空路線などを連携させて、戦略的に検討するべきと考えている。



04 第20期役員の補充

●副会長

松本 亮介 ジャムコ労働組合

●中央執行委員

新垣 真一 JALスカイエアポート沖縄労働組合

中嶋 達之 中部スカイサポート労働組合

中村 圭介 ジャルパック労働組合

中村 実穂 JALUX UNION

小林 ゆり ジャムコ労働組合

●会計監査

渡邊 航 ANA労働組合

●第20期特別中央執行委員

榎原あやこ ANA労働組合

坂元 慎平 ANA労働組合



05 退任される第19期役員の方々

お疲れさまでした



06 大会宣言の採択



航空連合 第20回定期大会

大会宣言

航空連合は1999年の結成から20年目を迎えました。結成以来、航空関連産業に働くすべての仲間の幸せのために、組合員の労働条件の向上や産業の基盤である安全の確保、政策実現、仲間の輪の拡大などに精力的に取り組んできました。その結果、第20期は結成以来はじめて、4万人を超える仲間とともにスタートできるまでにになりました。一方、この間、産業を取り巻く環境は急激に変化しており、産業別労働組合にもこれらの変化への的確な対応が一層強く求められていることを認識する必要があります。

現在、航空関連産業にとって大きなチャンスとなる2020年に向けた様々な準備が進められ、関連する需要の伸びによる日本経済の成長も期待されています。しかしながら、生産量の拡大に適切に対応するべく、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少という構造的な問題を抱えているなかにおいても、人材を定着させ、育成・確保するという課題を克服しなければ、迫りくるチャンスを確実につかみ取り、2020年以降も見据えた産業の持続的な発展を実現することは極めて難しい状況です。

いまこそ私たちは、喫緊の課題である人材の定着・育成・確保に対応するべく策定した「2020年までの重点取り組み項目」の達成に向け、産業の基盤強化と発展、働きやすさと働きがいの充実、産業の活力創造といった足下の課題に着実に対応していく必要があります。

加えて、節目の年を迎えるにあたり、次の時代に適した航空連合の運動を力強く展開していくためにも、これまでの運動を振り返り、総点検したうえで、守るべきものは守り発展させ、変えるべきところは勇気をもって変えていくことで、運動の基盤を再構築する必要があります。

私たちは航空労働界を代表する産業別労働組合としての責任と自覚を持ち、航空連合に集う54組合、41,419名の仲間との相互信頼を深め、英知を結集して、魅力ある産業の実現に精力的に取り組むことを宣言します。

航空連合 第20回定期大会
中央執行委員 赤嶺 藤乃

航空連合

は、航空関連産業で働く仲間・労働組合が大同団結し、産業の魅力の向上や基盤の強化に向けて1999年10月に結成された、航空労働界を代表する最大の産業別労働組合です。54の企業別組合の41,419人（うち客室乗務員1万人）で構成され、ナショナルセンター「連合」に加盟しています。



ニュース・航空連合へのご意見は
E-mailでお受けしています。

アドレス avinet00@jfaiu.gr.jp

ホームページ <http://www.jfaiu.gr.jp>

Facebookを
はじめました!
[facebook.com/jfaiu](https://www.facebook.com/jfaiu)

